ガラスに息吹を与える
サンドブラスト加工

サンドブラストの由来は海岸べりの窓ガラスに暴風が当ったとき砂がガラスにたたきつけられ、それが原因でガラスにキズがついたのをヒントにしたと読み物で知りました。
圧搾空気や高速回転の羽根車で研削材（金剛砂や人工アランダム）を高速度でガラスに叩きつける事によりガラス表面にキズをつけるところまで発展した様です。
圧搾空気で研削材をガラスに噴射すると５㎜程度の板ガラスはとても簡単に穴があき貫通します。そのためガラス表面に段差がつくまで彫刻することができるのです。
また言葉は、サンドは砂・ブラストは爆風といった意味で、二つの言葉で猛烈な砂嵐といった感じで捉えています

透明の無味なガラスに変化を与えガラスそのものに存在感を与えることができる
それがサンドブラスト技法です。特筆すべきは建築用の大板ガラスに古典絵画を模し
彫刻されたものは驚くべき美しさを醸し出すことでしょう。
そして建築板ガラスへの彫刻のみを生業としているお方もおられます。
ここで注意しなければならない事は、サンドブラスト加工によってガラスの強度が非常に低下しますので、ガラス面に外圧のかかる所や衝撃の恐れのある所に飾る事やはめる事は安全面での注意をされた方がいいでしょう。

私が住まいする南河内郡太子町は二上山の麓にあり隣接の香芝市穴虫方面と共に石器時代の昔からサヌカイト（石器の原石）と共に天然に金剛砂が産出していました。
この地方特産の金剛砂を採掘して紙ヤスリを製造する産業があったようですが、近年は採掘事業者はありませんし紙ヤスリの製造も廃れていった様です。
今回イベントに使用しているサンドブラスト機は特設デモ機として機動性を重視した為、軽量で非常にコンパクトに自作したものです。また吹き付ける空気の圧力はおよそ４気圧前後の範囲で、研削材はホワイトアランダムを使用しています。
メーカー品ではありませんから、少々見てくれは悪いものですが、本年８月八木駅前でのまほろばサマーチャリティ（橿原商工会議所青年部主催）に於いても、ボランティアの方々に体験いただき、大いに役立ちました。
今回のまほろばフェスタでもリサイクルの一環として体験デモを行っています。
一般市民の方々にも体験いただいたリサイクルビンはムーンライトIN藤原京でグラスキャンドルイルミネーションとして会場の雰囲気作りに使用されます。

最後に今回一連の現地デモに多大なご協力を頂いた地元企業である
村島硝子商事（株）に厚くお礼申し上げます。

畑田博昭　記

装飾ガラス
安全ガラス
ペアガラス
スペーシア

窓とガラスのプロフェッショナル
畑田ガラス店

サッシ取替え
三協アルミSR工法
窓のメンテナンス
各種アルミ建材

大阪府南河内郡太子町春日1463-13　tel 0721-98-3011　fax 0721-98-3506